資料１

大学入学資格検定の在り方について(答申【案】)のポイント

大検を取り巻く現状

○　受検者層の変化

大検の受検者の６割程度が高校等中退者。

○　大学入学資格の弾力化

個別審査の導入で大検が後期中等教育に代わる唯一の高等教育への経路ではなくなった。

○　大検の社会における活用

年約９～１０万人に上る高校中退者の職業生活への接続についてより積極的な取り組みが必要。

○　高等学校の生徒の多様化と高等学校教育の弾力化

多様化する高校生に高等学校教育が弾力的に対応することが必要。

基本的な考え方

○　大学入学資格付与の機能を維持すること

現行どおり、新試験の合格者に、一律に大学入学資格を付与するという現行の大検の機能を維持。

○　より広く活用される試験にすること

高校中退者への対応や高校教育の一層の弾力化に資するためにも、より多くの者が受験しやすいものとすることで新試験を活用。

○　就職等においても活用されるよう社会的通用性を高めること

新試験の合格が各種職業資格や採用試験の受験資格などにおいて高等学校卒業者と同様に扱われるように推進。

適切な名称（「高等学校卒業程度認定試験」など）とすることを含め、具体的方策を検討。

新試験の内容

○　受験科目について

①　受験科目の構成に当たっては、水準を維持しながら負担を増やさないようにすべき。

②　新試験は、国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語の６教科を必ず受験するものとして構成。
（英語を新たに追加。）

○　受験対象者について

全日制高校の在学生にも受験機会を拡大するとともに、全日制高校での単位認定など、多様な学習成果が評価されるような機会を提供。

社会的認知度を高めるための方策

○　新試験の合格者が高等学校の卒業と同等に扱われるようにするため、自治体や企業等の規則等に位置づけられるよう積極的に働きかけ。

（アクションプランの実施）

○　都道府県教育委員会を通じて新試験の概要等について積極的に情報提供。

○　大検の合格を経て社会的に活躍している人々の事例を紹介。